

社会的な見方・考え方を育てる中学校社会科學習指導の工夫

— 予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決學習を通して —

廿日市市立阿品台中学校 木下 美紀

研究の要約

本研究は、実社会の課題を解決するために必要となる社会的な見方・考え方を育てることを目的とする。文献研究から、社会的な見方・考え方を「社会的事象を捉え課題解決へ向けて追究するための視点や思考の方法」と定義した。公民的分野における社会的な見方・考え方は、政治や法、経済などに関わる概念や理論を視点とし、課題解決へ向けて予想や考察をする際、既習の知識や概念を関連付け、多面的・多角的に思考する中で働く。そこで、予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決學習を行った。充実させる手立てとして「学びのつながりシート」を開発し、思考の根拠となる社会的な見方・考え方を表出させ、より多面的・多角的に予想・考察させることで思考を深めさせた。さらに、既存の見方・考え方では答えられない事象を提示し、生徒に「なぜ」という疑問を抱かせる課題発見・解決學習の単元構成により、既習の知識や概念を関連付け、他者との交流を通して既存の社会的な見方・考え方を吟味し、これを修正・発展させ、成長させることができた。

のことから、予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決學習は、社会的な見方・考え方を育てることに有効であると考える。

キーワード：社会的な見方・考え方 予想や考察の場面の充実 「学びのつながりシート」

I 主題設定の理由

中学校學習指導要領（平成29年、以下「29年指導要領」とする。）社会科の目標においては、社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指すと示されている⁽¹⁾。所属校においても課題発見・解決學習を行っているが、學習後、実社会に見られる課題を考察する際に、学んだことを活用して解決に向けて構想することに課題のある生徒が多い。

また、全国学力・學習状況調査（平成28年度）では、課題解決のため進んで資料を集めることに肯定的な回答をした本県の中学生の割合は、38.3%と低い。このことは、課題の解決に向けてその筋道を予想すること、既習の知識を活用し考察することに、つまずきがあることを示しており、社会的事象の意味や意義・相互の関連を考察し、解決へ向けて構想する際に働く社会的な見方・考え方方が十分に育っていないためだと考える。

石井英真（2015）は、教科指導において「真正の學習」を目指し主体的な学びと対話的な学び、深い学びを統合的に「追求」することで生徒の知識が体

系的なものとなり、見方・考え方として内面化すると述べている⁽²⁾。このことから追究の結果、社会的事象に関する理論や法則を見いだすことのできる課題を設定することによって、生徒に課題を追究する意義を実感させることができ、また、探究的な學習により、見いだした法則や理論を習得させることによって知識の質的な成長が促され、社会的な見方・考え方を育てることができると考える。

そこで本研究では、社会的な見方・考え方を育てる課題発見・解決學習のために、社会的事象に関する理論や法則を見いだすことのできる課題を設定し予想の場面と考察の場面を充実させる。その手立てとして「学びのつながりシート」により、社会的な見方・考え方を働きかせた思考を促し、これを表出させ認識させる。また、生徒に「なぜ」という疑問を抱かせる課題発見・解決學習の単元構成により、既習の知識や概念を関連付け、他者との交流を通して既存の社会的な見方・考え方の成長を目指す。

このような指導の工夫により社会的な見方・考え方を育成できると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 社会的な見方・考え方について

(1) 社会的な見方・考え方と資質・能力との関係

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年、以下「中教審答申」とする。）によると、社会的な見方・考え方は、「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向け構想したりする際の視点や方法」¹⁾と位置付けられている。また、これは「本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠」²⁾であり「主体的に学習に取り組む態度」³⁾にも作用し、資質・能力全体に関わるものとされている。変化の激しい時代において、社会的事象をより深く理解し、実社会に見られる課題を解決しながら、よりよい社会を築いていくために必要な資質・能力の育成に欠かせないものとなるため、必要性が高まっている。図1は、「中教審答申」の補足資料を基に、稿者が社会的な見方・考え方と資質・能力との関係を示したものである。

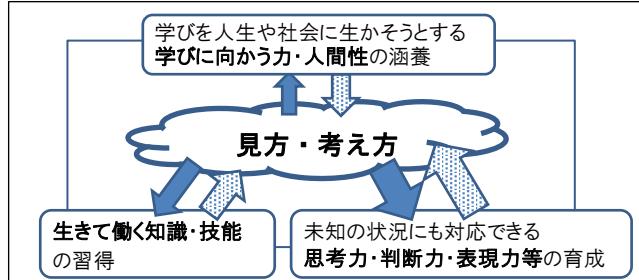


図1 見方・考え方と資質・能力との関係

社会的な見方・考え方は、資質・能力の三つの柱のいずれとも相互に作用するが、課題を追究し、解決する活動では、既習の知識や概念を活用し、関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成し、解決策を考え、創造したりするときに、社会的な見方・考え方方が鍛えられ、より豊かで確かなものになると述べられている。このことから、社会的な見方・考え方は、思考力・判断力・表現力と大きく関わって成長すると考えられる。

よって本研究において、社会的な見方・考え方はこれを働かせて思考することで育つと考える。

(2) 社会的な見方・考え方とは

ア 石井英真による各教科における見方・考え方

石井英真（2017）は、各教科等の見方・考え方を

教科固有の現実（問題）把握の枠組み（眼鏡となる原理）と、対象世界との対話の様式（学び方や問題解決の方法論）であると定義している⁽³⁾。また、石井（2015）は図2のように学校で育てる能力の階層の中に見方・考え方を位置付けている⁽⁴⁾。

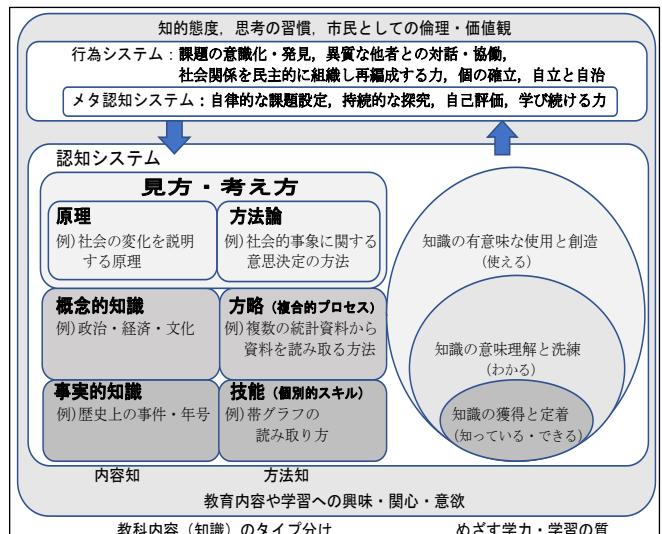


図2 学校で育てる能力の階層性（一部抜粋）

図2において、教科内容（知識）は、教科内容に関する知識である内容知と、教科横断的な汎用的スキルである方法知の2種類に分けられ、3層で整理されている。学習者は内容と方法の両面から教科の本質を「追求」する中で、原理・方法論を習得し、その結果、見方・考え方方が獲得されると述べている。このことから、内容知を一方的な説明により学習するのではなく、方法知によって内容知を活用し思考しながら高次な内容知へと成長させる学習によって、見方・考え方は育成されると考える。

さらに石井（2017）は、学習において現実の生活世界に学んだことを埋め戻し、問い合わせることによって、高次で深い学びとなり、知識や思考がその人の見方・考え方として、内面に深く身に付いていくと述べている⁽⁵⁾。このことから、見方・考え方を身に付けるためには、学んだ知識や技能を総合して取り組むような、よりリアルで複合的な生活や社会の課題を設定することが有効だと考える。

イ 森分孝治による社会的な見方・考え方

森分孝治（1978）は、「社会のみ方考え方とは、社会的事象・出来事をとらえるわく組みとしてはたらいている」⁴⁾とし、また、社会的な見方・考え方の要素を言葉により客觀化し、命題化したものが一般化・理論であり、これにより社会が説明、解釈できると述べている。さらに、森分（1984）は「社会的

見方考え方は、社会を解釈し説明するために、その人がもつ『法則』であり、『理論』である⁵⁾と述べている。

このことから、社会的な見方・考え方は社会的事象を捉え、自分なりに解釈し説明する際に働く、理論であると考える。

図3は森分が示す科学的知識の構造図⁶⁾に、社会的な見方・考え方がどのように働くかを、稿者が加筆・修正したものである。

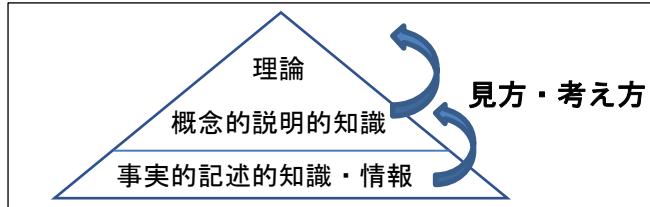


図3 科学的知識の構造図（一部加筆・修正）

森分は図3のように知識を事実的記述的知識・情報と概念的説明的知識・理論の二つに分けています。一層目の事実的記述的知識・情報は、特定の事象の理解と説明にのみ役立つ転移しない知識である。二層目は、事実的記述的知識・情報を基に概念を習得し、既存の社会的な見方・考え方である理論や概念的知識と関連付けながら、思考・判断し、傾向性や規則性をつかみ一般化する。そして推論を用いて広範囲の事象や出来事の理解や説明、予測に役立つ理論を獲得すると述べています。この一般化や理論は転移可能なものとなり、既存の社会的な見方・考え方を働かせより高次の科学的知識を獲得している⁷⁾。

さらに、一般化や理論、社会的な見方・考え方は新しく習得した事実的知識や概念的知識によって批判的に吟味されることで、より真理に近い科学的なものへと、修正・発展しながら成長すると述べています⁸⁾。また生徒自身が科学的に探究することによって概念的知識や理論、社会的な見方・考え方は成長し、生きて働くものとなるとも述べています。

このことから、社会的な見方・考え方は、新たに習得した事実的知識や概念的知識について、既存の社会的な見方・考え方を働かせて思考し、他者との交流を通して吟味し、既存の社会的な見方・考え方を修正・発展することによって成長すると考える。

ウ 「中教審答申」に示された社会的な見方・考え方

次の表1は、「中教審答申」別添資料（以下「別添資料」とする。）に示された中学校社会科における社会的な見方・考え方である。

表1 「中教審答申」に示された社会的な見方・考え方

地理的分野	社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で人間の営みと関連付けること。
歴史的分野	社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
公民的分野	社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。

地理的分野と歴史的分野の社会的な見方・考え方と、公民的分野のものではタイプが異なっている。

大杉昭英（2017）はこれについて、中学校地理的分野と歴史的分野の社会的な見方・考え方とは「どのようにしたら『答え』が導き出せるのか、その手続き（ハウ・ツー）が『視点』と『方法』になっている。」⁶⁾とし、公民的分野では「政治学や経済学が探究し形成した学問の基本構造であるディシプリンあるいは『概念的枠組み』が現代社会をとらえる『視点』となっており、その概念や先哲の考え方を活用して考察することが『方法』となっている。」⁷⁾と述べている。

つまり、公民的分野の社会的な見方・考え方とは、着目する視点自体が概念的枠組みであり、この視点を基に課題を捉え、解決へ向けて様々な知識や概念と関連付け思考するものである。

（3）本研究における社会的な見方・考え方

ア 本研究における社会的な見方・考え方とは

以上のことから、社会的な見方・考え方とは、社会的事象を捉え課題解決へ向けて追究するための視点や思考の方法だと考える。本研究は公民的分野を扱うため、政治や法、経済などに関わる概念や理論を視点として社会的事象を捉え、課題解決へ向けて概念や理論などと関連付けることが、社会的な見方・考え方である。

例えば「効率」と「公正」という社会的な見方・考え方とは、前者が時間やお金、労力などの無駄を省くというもの、後者は偏りがなく公平であるというものである。これに基づいて、後期研究授業で取り上げた非正規雇用問題において、効率の社会的な見方・考え方を働かせて思考すると、企業は利益をあげるために人件費の無駄を省く必要があり、止むを得ないという判断をし、公正の社会的な見方・考え方を働かせて思考すると、労働者は正規雇用でも非正規雇用でも、同一の労働をしているのだから賃金格差があるのは不公平だと判断する。こうして問題の対立点を明らかにした上で、企業や労働者など異なる

る立場の人が合意できる解決策を探る。解決策を探る中で、効率や公正の社会的な見方・考え方を働かせ既習の知識や概念を関連付けて思考する。

このように、公民的分野において、社会的事象を捉える際に視点となって働き、課題解決へ向け、関連付けながら思考するための概念や理論が本研究における社会的な見方・考え方だと考える。

イ 社会的な見方・考え方と多面的・多角的な思考

前述のように、課題解決へ向けて社会的な見方・考え方を働かせて思考し、複数の立場の人が合意できるよりよい解決策を提案するためには、多面的・多角的な思考が欠かせない。非正規雇用問題の例で言えば、効率、公正のどちらかのみの視点で思考するよりも、両視点で思考する方が多面的・多角的な思考である。さらに、効率の社会的な見方・考え方を働かせて、労働者の立場からワーク・ライフ・バランスを重視した働き方を求める考えが加わったり、公正の社会的な見方・考え方を働かせて、企業の立場から雇用を創出し社会的責任を果たす役割があるという考えが加わったりすることにより、一つの視点で複数の立場から思考することによって、一層多面的・多角的な思考となる。

このように多面的・多角的に思考することで、社会的な見方・考え方はより修正・発展し、これを働かせ思考することで、複数の立場の人が合意できるよりよい解決策を提案できると考える。

2 課題発見・解決学習について

(1) 課題発見・解決学習とは

平成29年度広島県教育資料によると、課題発見・解決学習とは、児童生徒が自ら課題を見付け、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく学習であると示されている。この学習を通して、社会的事象について課題を発見し、解決へ向けて思考する中で、生徒は既存の社会的な見方・考え方を働かせ、習得した知識を関連付けながら思考し、社会的な見方・考え方を修正・発展させていく。これが社会的な見方・考え方を育てることにつながると考える。

本研究では、主題設定の理由で述べたように「課題解決に向けてその筋道を立て予想すること」と「既習の知識を活用し考察すること」を充実させ、社会的な見方・考え方を育てようとしている。「別添資料」の社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージから、「課題解決に向けてその筋道を予想すること」は、「課題把握」の段階の「方向

づけ」の学習過程（以下「予想の場面」とする。）に、「既習の知識を活用し考察すること」は「課題追究」の段階の「考察・構想」の学習過程（以下「考察の場面」とする。）に相当すると考える。

そこで本研究では、この「予想の場面」と「考察の場面」を充実させる課題発見・解決学習を行うことで、社会的な見方・考え方を育てることとする。

(2) 予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習

ア 予想や考察の場面と社会的な見方・考え方

予想や考察の場面で社会的な見方・考え方はどのように働き、どのように成長しているのだろうか。

森分（1984）は「知識は判断の内容であり、判断した結果である。」⁸⁾と述べている。このことから、思考の中で社会的な見方・考え方を働かせて判断しその結果、知識となり習得されると考える。

さらに森分は、「起因・影響・結果を探っていくとき、既存の『事実』的知識の中から当の事象そのものがどうになっているかの知識をひきだしていく。そして、概念的知識にもとづいて、原因あるいは結果である事象を発見してゆき、個別的説明的判断を下していく。」⁹⁾とし、「既存の『法則』『理論』で納得できる原因あるいは影響・結果を発見することができない場合には、『法則』『理論』を吟味しなおし、修正し、発見できるように発展させていく。」¹⁰⁾と述べている。

これを基に、図3の科学的知識の構造に対応させながら、予想の場面、考察の場面それぞれで働く社会的な見方・考え方について説明する。

予想の場面は、提示された社会的事象（事実的記述的知識）について既習の知識や概念と、既存の社会的な見方・考え方（概念的説明的知識や法則・理論）を働かせて思考し、判断し、予想・仮説を構築する場面である。このとき、自分の分かっていること、分からることを判断し、課題解決への筋道や見通しを立てている。そして予想・仮説の検証のため情報収集を行い、新たな知識や概念を習得する。

考察の場面は、既存の社会的な見方・考え方（概念的説明的知識や法則・理論）を働かせ、既習の知識や概念（事実的記述的知識や概念的説明的知識）や、新たに学んだ知識や概念（事実的記述的知識や概念的説明的知識）を関連付けて思考する場面である。このとき、多面的・多角的に考察することにより、既存の社会的な見方・考え方では十分に説明できない場合、既存の社会的な見方・考え方を吟味しこれを修正・発展させる。こうして、より広範囲の

社会的事象が説明できる社会的な見方・考え方を習得し、これを働かせ思考し解決を図る場面である。

イ 予想や考察の場面を充実させる手立て

予想や考察の場面を充実させる手立てとして、まず、予想の場面、考察の場面ともに社会的な見方・考え方を働かせて思考する場面であることから、後述する「学びのつながりシート」を活用し社会的な見方・考え方をより働かせた思考を促す。さらに、「学びのつながりシート」への記述によって、どのような社会的な見方・考え方を働かせたのかを可視化し、認識させる。

また、後述する「予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習の単元構成」によって、社会的な見方・考え方の修正・発展を促す。予想の場面では、既存の社会的な見方・考え方を働かせて思考し

考察の場面では、既習の知識や概念、新たに習得した知識や概念を関連付けて思考し、他者との交流を通して、既存の社会的な見方・考え方を吟味することによって、既存の社会的な見方・考え方の修正・発展を促す。

これらの手立てにより、予想や考察の場面を充実させ、社会的な見方・考え方の成長を図る。

(3) 「学びのつながりシート」について

課題発見・解決学習における予想や考察の場面を充実させる手立てとして図4・5の「学びのつながりシート」を提案する。これは、エビデンス・バー ガーという思考ツールを基に作成し、予想編と考察編、単元編の3種類から成り立っている。

図4の予想編と考察編シートは、同形式のものを使用し、予想時と考察時の思考を比較することによ

学びのつながりシート<予想編>		3年組 番名前
単元名【 現代社会をとらえる見方や考え方 】		
★単元クエスチョン 単元を貫き、学んだ知識や技能を総合して追究する課題。		
②理由・根拠 社会的な見方・考え方を表出。		
③こんな意見もあるけれど 自分と異なる視点・立場の意見を想定。 自分と異なる社会的な見方・考え方の把握。		
④③はこうクリアして 自分と異なる視点・立場での意見に対する対策を記述。 社会的な見方・考え方を表出。		
⑤予想または考察時の解決策 ①～④に沿ってまとめる。		
★単元クエスチョン 広島広域公園のサッカースタジアムの老朽化や交通アクセスの悪さなどから、広島県・広島市などは新サッカースタジアム建設を検討している。 候補地は、A：中央公園自由広場・芝生広場 B：旧広島市民球場跡地 C：広島みどり公園があがっている。「サッカースタジアム実務者検討作業部会」のメンバーとして、みんな（賛成派・反対派）が納得する解決策を打ち出してほしい。		
①私の提案 A：中央公園自由広場・芝生広場 B：旧広島市民球場跡地 C：広島みどり公園 に建設する。 優先順位（ ） 優先順位（ ） 優先順位（ ）		
②理由・根拠		
②理由・根拠		
②理由・根拠		
③こんな意見もあるけれど		
④③はこうクリアして		
⑤解決策 ※①～④をまとめて書いてみよう。		

図4 「学びのつながりシート」（予想編・考察編）

The diagram illustrates the process of learning and problem-solving. It starts with the '学びのつながりシート <単元編>' (Learning Connection Sheet <Unit Edition>) at the top right. This sheet includes fields for '学年' (Grade), '組' (Group), '番' (Number), and '名前' (Name). Below it is the '最終解決策' (Final Solution策) box, which contains a table for '予想の解決策' (Predicted Solution策) with columns for '月' (Month) and '日' (Day). To the left of the '最終解決策' box is the '学びのつながりシート' box, which contains sections for '毎時間の授業の学び' (Learning during every class), '最終解決策' (Final Solution策), and '気づき' (Insight). Arrows point from the '学びのつながりシート' box to both the '最終解決策' box and the '気づき' box.

図5 「学びのつながりシート」（単元編）

り、その変容を捉えやすくしている。図4の②では現時点での自分の考えにおける理由や根拠を挙げることで、既習の知識や概念、既存の社会的な見方・考え方を表出する。③・④では、自分の考え方への反論などを想定することで、多面的・多角的な考察を促し、批判的に吟味しながら、予想の場面では仮説を、考察の場面では理論を構築する。⑤では、自分の考え方を論理的にまとめ説明する。このシートにより、学習者は社会的事象や課題についてどのような視点で、どのように思考しているのか確認することができる。そのため、他者との吟味の際に論点が明確となり、より深く思考することにつながる。また授業者はシートへの記述内容から生徒の思考や社会的な見方・考え方を読み取ることができる。

図5の单元編シートは、予想の場面と考察の場面での思考を比較することができ、学習者は自分の思考の深まりや社会的な見方・考え方を修正・発展し成長したことを認識できる。授業者は、学習者の思考や社会的な見方・考え方の変容について読み取ることができる。また、毎時間の授業で得た知識や概念を自分の言葉でシートに記述させ、考察の場面で課題を再考する際に活用させることで、新たな知識や概念を関連付けた思考を促し、既存の社会的な見方・考え方を修正・発展させる。

III 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

課題発見・解決学習において、予想の場面と考察の場面の充実を図れば、社会的な見方・考え方は成長するであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、次の表2に示す。

表2 検証の視点と方法

	検証の視点	方法
1	課題について社会的な見方・考え方を働きかせ多面的・多角的に考察し、よりよい解決策が提案できたか。	プレテスト、ポストテスト
2	予想の場面と考察の場面を充実させる課題発見・解決学習は有効であったか。	解決へ向け知りたい情報の回答と「学びのつながりシート」のパフォーマンス課題の記述内容
3	「学びのつながりシート」は思考を可視化し、社会的な見方・考え方を働きかせた思考を促す上で有効だったか。	アンケート

(1) 「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の視点について

「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の視点は、中学校学習指導要領（平成20年）公民的分野において現代社会を捉える見方や考え方の基礎として理解させると述べられている。人間は多様な考え方をもっており、その違いから対立が生じた場合、社会集団の中でともに成り立つために、互いに利益が得られるような合意を目指す。その合意の妥当性を判断する代表的な規準が効率と公正の視点である。

「別添資料」には、公民的分野における視点例として他にも個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性などが挙げられているが、中でも、対立と合意、効率と公正は、現代社会を捉える視点にも、社会に見られる課題の解決を構想する視点にも挙げられ、社会的事象を捉え課題解決へ向け追究するための視点や思考の方法、つまり社会的な見方・考え方として重要なものだと考える。

(2) プレテスト及びポストテストについて

研究授業に伴い、前期は図6の赤字バス路線を廃止するか存続するか、市長として市民に説明するもの、後期は図7のコンビニエンスストアの24時間営業を続けるべきか、やめるべきかについて考えをまとめるプレテスト・ポストテストを実施した。

これに対し、社会的な見方・考え方である効率と公正の両視点で対立を捉え、多面的・多角的に考察し、複数の立場の人が合意できる解決策が提案できるかについて検証した。

本研究では、社会的な見方・考え方を働きかせて課題解決へ向け考察しているかを重視するため、プレテストとポストテストは同じものを使用し、その記述内容の変容を検証した。

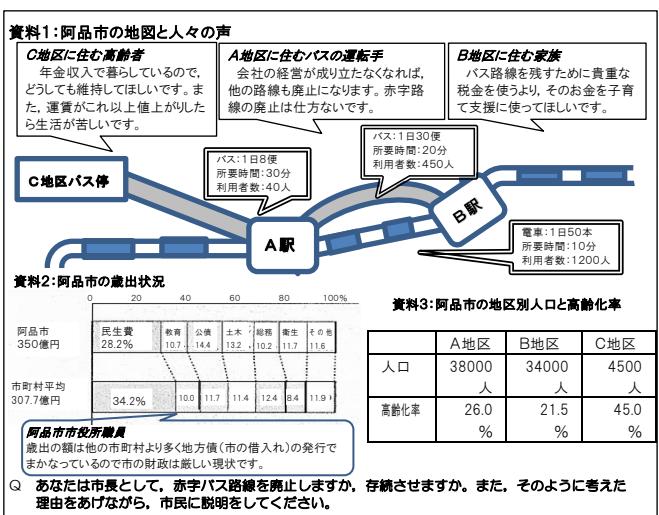


図6 前期プレテスト、ポストテスト

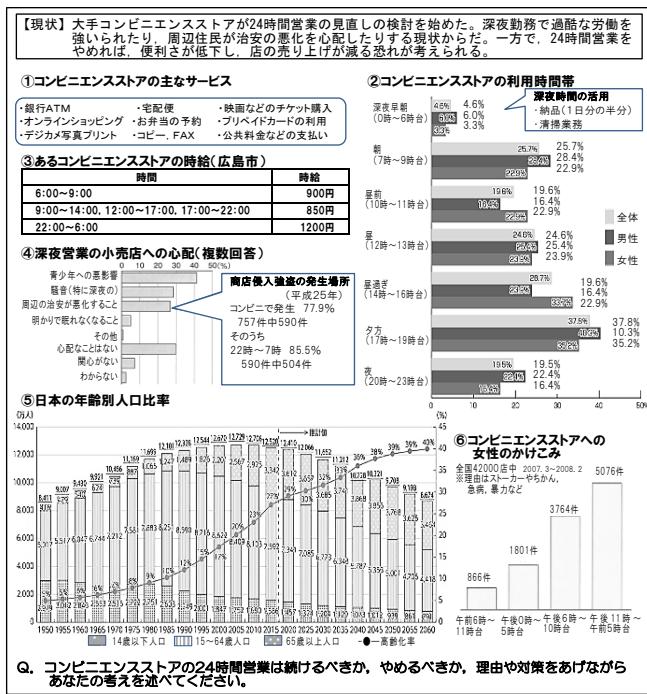


図7 後期プレテスト、ポストテスト

(3) 「学びのつながりシート」について

187頁図4・5の「学びのつながりシート」は、思考を可視化し、社会的な見方・考え方を表出させ、その修正・発展を促すものである。

前期は、対立と合意、効率と公正の社会的な見方・考え方を習得する単元において、広島のサッカースタジアム建設問題の解決策を探究した。予想の場面では、図4の予想編シートを活用し、既存の社会的な見方・考え方を表出させながら、解決策を予想させた。その後、様々な立場や条件がある中でバースデーケーキをどのように分ければ合意できるかを考える授業を行い、効率と公正の両視点で思考し、解決策を導く重要性を学習した。ここで学んだ効率と公正の視点について、図5の単元編シートに自分の言葉による説明を記述させ、再度サッカースタジアム建設問題の解決策を考える際に働かせることができるようにした。考察の場面では図4の考察編シートを活用し、効率と公正の見方・考え方を働かせ思考した解決策が記述されるよう促した。

後期は、非正規雇用問題の解決策を探究した。図4の予想編と考察編シートを、後述の192頁図9のように改善して使用した。前期同様、予想の場面では図9の予想編シートにより、効率と公正の社会的な見方・考え方を働かせた思考を促し、記述により表出させた。そして、予想の場面での解決策を他者と交流させ自分にはなかった考えを図9の予想編シートに記入させた。その後、企業の仕組みや労働につ

いて新たに習得した知識や概念を、図5の単元編シートで説明させ、再度非正規雇用問題を考える際に活用できるようにした。考察の場面では、図9の考察編シートにより、効率と公正の社会的な見方・考え方を働かせて、新たな知識や概念を関連付けて多面的・多角的に思考させた後、考察の場面での解決策を他者と交流させ自分にはなかった考えを図9の考察編シートに記入させた。これにより既存の社会的な見方・考え方が修正・発展することを促し、多面的・多角的な思考による解決策の提案を目指した。

このように、3種類の「学びのつながりシート」を活用し、社会的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に考察し、よりよい解決策を提案しているかについて予想の場面での解決策と考察の場面での最終解決策の記述内容の変容から予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習の有効性を検証した。

(4) アンケートについて

前期・後期ともに研究授業開始前と終了後にアンケートを行った。4段階の評定尺度法を用い、「学びのつながりシート」が思考を可視化し、社会的な見方・考え方を働かせた思考を促すまでの有効性と自分の思考や社会的な見方・考え方成長した認識について生徒の意識を把握した。また、自由記述欄への記述内容からも生徒の意識を把握した。

IV 前期研究授業

○前期研究授業の概要

研究授業の内容	期間	平成29年7月4日～平成29年7月13日
	対象	所属校第3学年(4学級128人)
	単元名	現代社会をとらえる見方や考え方
	目標	社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考え、現代社会を捉える見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正等について理解することができる。
指導計画	学習内容	
	1	【課題の発見・設定】 広島のサッカースタジアム建設問題をパフォーマンス課題とし対立と合意の考え方やきまりの意義を理解し、どのように解決すればよいか解決策を予想する。
	2	【情報の収集・整理・分析①】 バースデーケーキ分割問題から、より多くの人が合意できる解決策となるための効率と公正の視点や考え方を理解する。
	3	【情報の収集・整理・分析②】 広島のサッカースタジアム建設問題について、資料を考察し、より多くの人が合意できる解決策を考え、グループで吟味する。
	4	【まとめ・創造・表現・振り返り】 他者の考えも参考にしながら、自分の最終的な解決策を再考する。クラスで合意形成を図った後、予想の解決策と最終解決策を比較し、自分の思考の変化や、現代社会を捉える社会的な見方・考え方について理解する。

V 前期研究授業の分析と考察

1 社会的な見方・考え方を働かせ多面的・多角的に考察し、よりよい解決策が提案できたか

プレテストとポストテストにおいて、社会的な見方・考え方を働かせ、よりよい解決策が提案できたかについて、表3のような検証の判断基準を設定した。また、プレテスト・ポストテストの効率と公正の視点で捉える理由・根拠の例を表4のように整理し、その結果を表5に示す。

表3 社会的な見方・考え方を働かせ、よりよい解決策が提案できたかを検証する判断基準

段階	判断基準
A	効率と公正の両視点で考えを述べ、複数の立場の人が合意できる解決策が1つ以上提案されている。
B	効率と公正の両視点で考えを述べているが、複数の立場の人が合意できる解決策があげられていない。
C	効率または公正のどちらかの視点でのみ考えを述べ、複数の立場の人が合意できる解決策が1つ以上あげられている。
D	効率または公正のどちらかの視点でのみ考えを述べ、複数の立場の人が合意できる解決策があげられていない。
E	無回答

表4 プレテストとポストテストにおける効率と公正の視点で捉える理由・根拠の例

各視点で捉える理由・根拠の例	
効率の視点 (無駄を省く)	<ul style="list-style-type: none"> 路線バス会社の採算性 利用者数の大小 市の財政状況 地区別人口の大小
公正の視点 (公平である)	<ul style="list-style-type: none"> C地区住民の公共交通機関を求める権利 高齢者への配慮 税金の使い方(全ての地区の人のために使うべき)

表5 プレテストとポストテストにおけるクロス集計

		ポストテスト					計(人)
		A	B	C	D	E	
プレテスト	A	6	1	0	0	0	7
	B	2	0	0	0	0	2
	C	22	4	4	2	0	32
	D	24	16	15	12	0	67
	E	0	1	4	3	2	10
計(人)		54	22	23	17	2	118

表5のように、プレテストでは、効率と公正の両視点で課題を思考した生徒は9人(7%)、そのうち解決策まで提案した生徒は7人(5%)であった。ポストテストでは、効率と公正の両視点で課題を思考した生徒は76人(64%)となり、解決策まで提案した生徒は54人(45%)と増加した。

次に、プレテスト・ポストテストにおける生徒の記述の変化を表6に示す。

生徒a・bは、プレテストではD段階だったが、ポストテストではA段階になった。プレテストでは生徒a・bとともに公正の視点のみで思考しているがポストテストでは効率と公正の両視点で思考し、解

決策を提案している。つまり、効率と公正の両視点を社会的な見方・考え方として働かせて思考することで、複数の視点で複数の立場から多面的・多角的に考察し、よりよい解決策を提案している。

表6 プレテスト・ポストテストにおける記述の変化

	生徒a (D→A)	生徒b (D→A)
プレテスト	存続させます。なぜなら、お年寄りの人が中心部まで出なければいけないときの手段がなくなり大変だから。	存続させます。なぜなら、廃止してしまうと困る人が出てくるから。
ポストテスト	存続させます。利用者数が少ないのにCにバスを出すのは赤字になってしまがすべての便を廃止すると、C地区の高齢者は交通手段を失い困る。私は、C地区へのバスの本数を減らして赤字をしのげばよいと思います。	利用客減少で赤字が続き市の財政が厳しいので、バス路線は廃止すべきと考える。ただ廃止するだけだとC地区に住む高齢者が不利で公正ではない。だから、C地区の人はタクシーを利用するときいつでも半額にするなど生活に困らない対策をすべきだと思う。

【下線部の凡例】 _____: 効率、 _____: 公正、 _____: 解決策

このような変化は、既存の社会的な見方・考え方を働かせ、新たに習得した知識や概念を関連付けて思考し、他者との交流を通して既存の社会的な見方・考え方を吟味することによって、社会的な見方・考え方方が修正・発展したためだと考える。

一方、ポストテストにおいても効率または公正のどちらかの視点のみで思考し、解決策に至らなかつた生徒が17人(14%)いた。これは、複数の資料から情報を読み取り、既存の社会的な見方・考え方を働かせて思考する際、新たな知識や概念と関連付けて思考することが難しかつたため、既存の社会的な見方・考え方を修正・発展させることができなかつたからだと考える。

2 予想の場面と考察の場面を充実させる課題発見・解決学習は有効であったか

(1) 解決へ向けて知りたい情報の回答分析

表7は、予想前と考察前に解決へ向けて知りたい情報について質問し、生徒が回答した内容である。

予想前(第1時)に知りたい情報は効率の視点が多かつたが、考察前(第3時)は「周りの人の気持ち」「広島県民の意見」など公正の視点が加わり思考する視点が増えた。これは、第2時に効率と公正の両視点で考える重要性を学んだためだと考える。

表7 解決へ向けて知りたい情報

予想前(第1時)	考察前(第3時)
・交通の便	・費用
・面積	・環境
・周りの施設	・周りの人の気持ち ・広島県民の意見 ・サポーターの意見

このように知りたい情報を考えることは、解決へ向けて筋道や見通しを立てることになり、何を基にどのような視点で思考すればよいかが明確となるため、深い思考を促すことにつながった。

(2) 「学びのつながりシート」の記述分析

次に、「学びのつながりシート」への記述について、多面的・多角的に考察し、解決策を提案できなかついて検証した。効率と公正の視点で捉える理由や根拠の例は、表8のように整理し、前頁表3によって集計した結果を表9に示す。

表8 「学びのつながりシート」における効率と公正の視点で捉える理由・根拠の例

各視点で捉える理由・根拠の例	
効率の視点 (無駄を省く)	・交通機関の利便性 ・面積の大小 ・集客力 ・費用(支出) ・他の施設との連携 ・サッカースタジアムに求めるものについての市民・県民などの声
公正の視点 (公平である)	・各地域への建設反対派の声 (基町地区住民の声、美観形成基準、物流業者の声等)

表9 「学びのつながりシート」におけるクロス集計

予想		考 察 後					計 (人)
		A	B	C	D	E	
A		12	1	1	0	0	14
B		6	2	0	1	0	9
C		23	3	6	0	0	32
D		29	12	8	11	0	60
E		0	0	0	1	0	1
計 (人)		70	18	15	13	0	116

表9のように、予想では効率と公正の両視点で考えている生徒は23人(19%)であったが、考察後は88人(75%)になった。この結果から、授業後、効率と公正の両視点を社会的な見方・考え方として働かせて思考する生徒が増加したことが分かる。

次に「学びのつながりシート」における解決策の記述の変化を表10に示す。

表10 「学びのつながりシート」における解決策の記述の変化

生徒c (D→A)	
予想	私はA(中央公園自由広場・芝生広場)の場所が良いと思う。理由は市内に近く、交通機関も充実しており、広さもあり支出も安く多くの人が来るから。しかし、広島みなと公園の方が広く海を利用し人が増えることもあるが、(Aに)たくさんの施設を設けることで解決できると考える。
考察後	私はやっぱりC(広島みなと公園)が良いと考える。理由は海辺なので騒音の心配がなく、交通機関を充実することで渋滞も解消できる。また、海辺を使った施設やイベントをすることで収益が高まると考えたから。

【下線部の凡例】 : 効率, : 公正, : 解決策

生徒cは予想ではD段階だったが、考察後はA段階になった。予想は、効率の視点のみで利用者の立

場から利便性について、市の立場から採算性について思考していた。考察後は、公正の視点が加わり、周辺住民の立場から騒音や渋滞についても思考して解決策を提案している。

このように、多くの生徒が考察後にA段階になった要因として、予想や考察の場面で「学びのつながりシート」を活用し、社会的な見方・考え方を働かせた思考を促し、これを記述し可視化したことが挙げられる。また、シートを基に他者との交流を通して既存の社会的な見方・考え方を吟味し、修正・発展させたためだと考える。

一方で、考察後も13人(11%)の生徒が効率と公正のどちらかの視点でしか思考することができず、解決策に至らなかった。これは、既存の社会的な見方・考え方を修正・発展できなかつたためだと考えられる。今後は、他者との交流の中で、自分にはない社会的な見方・考え方を働かせた考えを「学びのつながりシート」に記入させ、自分の社会的な見方・考え方と比較し、吟味できるようにしたい。

3 「学びのつながりシート」は思考を可視化し、社会的な見方・考え方を働かせた思考を促す上で有効であったか

図8は、事前・事後アンケートの結果である。

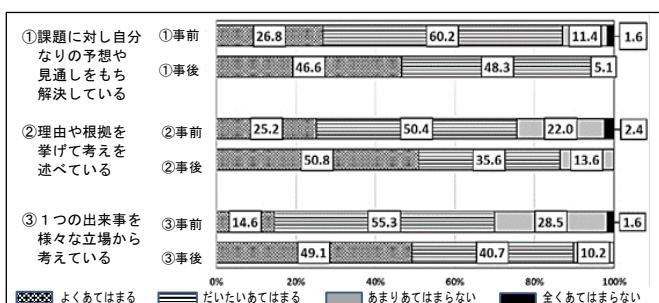


図8 事前・事後アンケート結果(総数118人)

事前と事後を比較すると、見通しをもって課題解決をしている、根拠を挙げて考え方を述べているという項目に、よくあてはまると答えた生徒の割合は約2倍に増えた。また、一つの出来事を様々な立場から考えているという項目では、よくあてはまると答えた生徒が14.6%から49.1%と大きく伸びた。自由記述の欄には、「自分がなぜそのように考えたのかが分かった。」「様々な立場から考えることで自分の考えが深まった。」と記述した生徒が多かった。

このことから、「学びのつながりシート」により根拠を挙げ説明することで、自分の思考の視点、つまり社会的な見方・考え方が明確になったことが分

かる。また、様々な立場からの反論やその対策を考えることによって多面的・多角的な思考を促し、これらを可視化することにより、自分自身の思考の深まりや成長を認識することにつながった。

VI 前期研究のまとめ

1 前期研究の成果

課題発見・解決学習において、予想の場面では解決への見通しをもたせ、既存の社会的な見方・考え方を働かせて思考させること、考察の場面では社会的な見方・考え方を働かせて、新たに習得した知識や概念と関連付けて思考し、他者との交流を通して既存の社会的な見方・考え方を吟味し、修正・発展させることによって、社会的な見方・考え方が成長することが分かった。社会的な見方・考え方を成長させるには、自分の思考や既存の社会的な見方・考え方を表出させ、認識させることが重要である。

2 前期研究の課題

課題は3点である。1点目は、社会的な見方・考え方は、課題解決に向けた予想や考察を通して徐々に修正・発展しながら成長するため、習得した社会的な見方・考え方を働かせ、思考する課題発見・解決学習の単元開発を継続することである。2点目は社会的な見方・考え方を修正・発展できなかった生徒への手立てとして、他者との交流で得た自分にはない社会的な見方・考え方を記述させ、吟味できるよう「学びのつながりシート」を改善することである。3点目は、生徒からの「なぜ」という疑問に基づく課題発見・解決学習により探究意欲を高め、予想や考察の場面において社会的な見方・考え方をより働かせて思考させ、修正・発展を促すことである。

VII 後期研究授業へ向けて

後期研究授業は、前期に習得した対立と合意、効率と公正の社会的な見方・考え方を、他の社会的事象において働かせ思考することを目指した。前期の課題から予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習において、社会的な見方・考え方を一層修正・発展させる手立てについて研究を進めた。

1 社会的な見方・考え方の修正・発展を促す課題発見・解決学習

(1) 「学びのつながりシート」の改善

後期は、187頁図4の「学びのつながりシート」(予想編・考察編)を図9のように改善した。改善点は図9の円で囲んだ部分のように、他者との交流で得た社会的な見方・考え方を記し、自分のものと比較し吟味できるようにした点である。これにより社会的な見方・考え方の修正・発展を促すことをねらった。なお、単元編のシートは、図5と同形式のものを使用した。

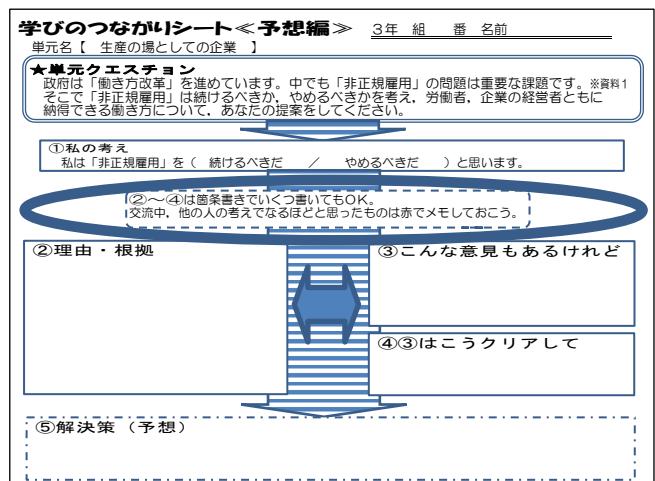


図9 後期「学びのつながりシート」(予想編・考察編)

(2) 予想や考察の場面で社会的な見方・考え方を一層働かせた思考を促す課題設定

ア 「なぜ」という疑問に基づく課題の必要性

前期研究において、プレテスト・ポストテストとともに社会的な見方・考え方を働かせて思考はしていたが、既存の見方・考え方を修正・発展させて思考し、解決策が出せなかった生徒が14%いた。これは自分自身の問題として課題を探究することができなかつたため、社会的な見方・考え方を十分働かせて思考できなかつたことが要因だと考える。そこで、探究する課題は生徒からの「なぜ」という疑問を基に設定したものが望ましいと分かった。

イ 「なぜ」という疑問に基づく課題と社会的な見方・考え方の修正・発展

森分(1984)は、「事象の起因や影響・結果について問われ、あるいはそれに疑問をもつときに最も良く思考を働かせ知識をつくり修正し発展させていく」¹¹⁾と述べている。つまり、「なぜ」と社会的事象の起因や影響・結果について問われ答えるには、事象について説明し得る根拠を見付けて関連付け、推論せねばならない。このとき根拠として表出するのが社会的な見方・考え方だと考える。

さらに、森分は「なぜ」という疑問に答え説明す

るとき、知識は累積的だけでなく、変革的にも成長するとしている。森分は、既存の社会的な見方・考え方で説明できない事象に出くわすと、それと並存する法則や理論を創造して説明するか、既存の社会的な見方・考え方を包摂するより高いレベルの法則や理論を発明・創造して説明することになり、前者の場合は累積的に、後者の場合は変革的に成長していると述べている⁽⁹⁾。つまり「なぜ」という疑問に答えることは、法則や理論である社会的な見方・考え方を修正・発展し、成長するといえる。

このことから、「なぜ」という疑問をもたせ、これに基づく課題を設定し探究させることで、社会的な見方・考え方をより働かせた思考を促し、修正・発展を目指すこととする。

(3) 「予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習の単元構成」

社会的な見方・考え方をより修正・発展させるため、図10の「予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習の単元構成」を提案する。

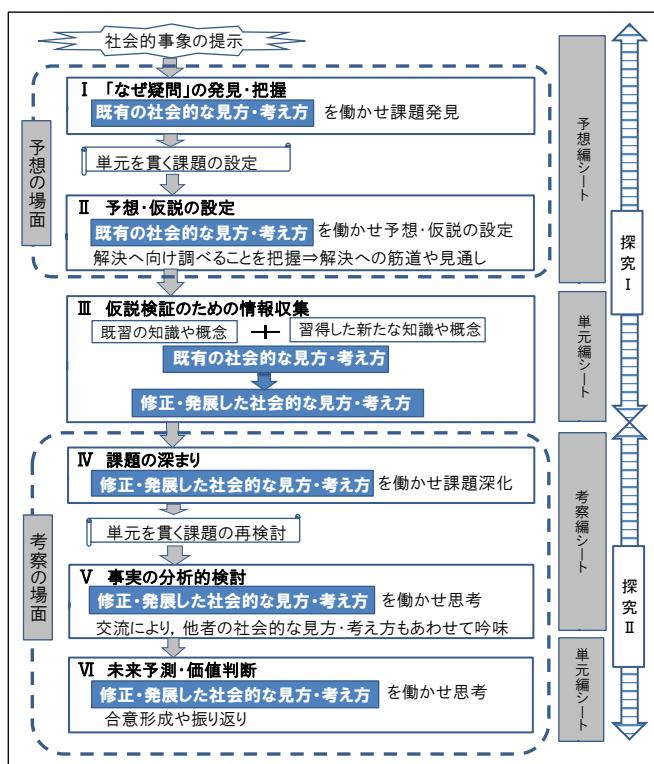


図10 「予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習の単元構成」

米田豊（2014）は、習得・活用・探究を組み込んだ授業構成理論に基づいた単元構成について述べている⁽¹⁰⁾。米田の唱える単元構成は、探究Ⅰの「分かる過程」と、探究Ⅱの「考える過程」から構成され

ている。探究Ⅰは、「『なぜ疑問』の発見・把握」「予想・仮説の設定」「仮説の検証のための資料の収集と選択、決定」「選択した資料をもとにした検証」「説明的知識の習得」の五つの段階がある。探究Ⅱは「分かる過程」で習得した説明的知識等を活用することにより「新たな社会事象への応用」「深まった問い合わせの発見、探究」「価値分析・未来予測」の三つの過程から成り立っている。

米田の単元構成を参考に作成した図10では、まず予想の場面で、ある社会的事象を提示するとⅠのように既習の知識や概念、既存の社会的な見方・考え方方が働き、問題意識をもち課題を発見する。その際生徒の既存の社会的な見方・考え方を把握しておき認識のズレが生じるような社会的事象を取り上げることで、生徒に「なぜ」という疑問を持たせる。これは探究意欲を高めるだけでなく、単元を通して社会的な見方・考え方をより働かせた思考を促すことになるためである。この生徒からの「なぜ」という疑問に基づく課題を、単元を貫く課題に設定する。

その後Ⅱのように、裏付けとなるデータや事実を基に、既習の知識や概念と既存の社会的な見方・考え方を働かせて思考し、前頁図9の「学びのつながりシート」（予想編）で予想・仮説を立てる。予想・仮説を立てることができれば、解決へ向けて今後、どのような情報を、どのような資料から、どんな視点で調べればよいかが明確になり、課題解決へ向けて筋道や見通しを立てることができる。

次に、Ⅲのように筋道や見通しに基づき予想・仮説を検証するための情報収集を行う。検証のための情報とは、単元内の授業において小さな課題発見・解決学習を行い習得した新たな知識や概念である。この知識や概念は187頁図5の「学びのつながりシート」（単元編）で説明させ、考察の場面で社会的な見方・考え方を働かせて思考する際に活用し課題解決につなげる。この段階で、既存の社会的な見方・考え方方が徐々に修正・発展していると考える。このⅢまでが米田の唱える探究Ⅰの過程に相当する。

IVからVIは考察の場面である。修正・発展した社会的な見方・考え方を働かせ、新たな知識や概念を関連付けて思考し、単元を貫く課題を再検討する。前頁図9の「学びのつながりシート」（考察編）を活用し、修正・発展した社会的な見方・考え方を働かせた思考を促し、表出させる。その後、他者との交流を通して、自分にはない社会的な見方・考え方を気付き吟味させ、多面的・多角的に思考させることによって、社会的な見方・考え方方がより修正・発

展することを促す。その後、再度、単元を貫く課題について修正・発展した社会的な見方・考え方を働かせて思考することによって、様々な側面や立場からより多面的・多角的に思考した最終的な課題解決を行う。最後に予想や考察の場面での思考について187頁図5の「学びのつながりシート」（単元編）への記述を振り返らせ、自分の思考の深まりや成長に気付かせる。

以上のような、予想や考察の場面を充実させる単元構成に沿った課題発見・解決学習を行うことにより社会的な見方・考え方を修正・発展させ、成長させることができると考える。

VII 後期研究授業

後期研究授業では、前期で習得した対立と合意、効率と公正の社会的な見方・考え方を他の社会的事象について働かせ、多面的・多角的に考察し、解決策を提案することを目指した。また、社会的な見方・考え方をより修正・発展させるために「学びのつながりシート」を改善し、予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習の単元構成に沿って進めた。

○後期研究授業の概要

研究授業の内容	期間	平成29年12月4日～平成29年12月15日
	対象	所属校第3学年（4学級128人）
	単元名	生産の場としての企業
	目標	現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解し社会における企業の役割と責任について考えさせる中で、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について考えさせる。
指導計画	時	学習内容
	1	【課題の発見・設定】 非正規雇用の実態から、今日の企業と労働における課題を発見し、対立と合意、効率と公正等の視点で思考して、パフォーマンス課題である解決策を予想する。
	2	【情報の収集・整理・分析①】 パン屋の経営者のシミュレーションを通して企業の仕組みや企業の目的と役割について理解する。
	3	【情報の収集・整理・分析②】 ライバル店の登場と経営のシミュレーションを通して、企業の競争による影響について考える。
	4	【情報の収集・整理・分析③】 企業の競争が進むと、企業や私たちの暮らしにどんな変化と影響があるのか考える。
	5	【情報の収集・整理・分析④】 企業の在り方について資料を基に労働者の立場から考える。
	6	【まとめ・創造・表現】 非正規雇用の問題について、企業と労働者が合意できるよりよい解決策を考察し、グループで吟味し発表する。
	7	【まとめ・創造・表現・振り返り】 他者の考えや各班の発表を参考に、自分の最終解決策を再考する。クラスで合意形成を図った後、予想の解決策と最終解決策を比較し、自分の思考や社会的な見方・考え方の変化に気付く。

IX 後期研究授業の分析と考察

1 社会的な見方・考え方を働かせ多面的・多角的に考察し、よりよい解決策が提案できたか

プレテストとポストテストにおいて、社会的な見方・考え方を働かせ、よりよい解決策が提案できたかについて、190頁表3を基に検証した。プレテストとポストテストにおける効率と公正で捉える理由・根拠の例を表11のように整理し結果を表12に示す。

表11 プレテストとポストテストにおける効率と公正の視点で捉える理由・根拠の例

各視点で捉える理由・根拠の例	
効率の視点 (無駄を省く)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストアの採算性 ・消費者の利便性 ・労働者の賃金の効率性
公正の視点 (公平である)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への貢献（安全性等） ・労働力不足による過酷な労働（働く権利） ・エネルギーの浪費 ・雇用の創出

表12 プレテストとポストテストにおけるクロス集計

		ポストテスト					計（人）
		A	B	C	D	E	
プレテスト	A	28	5	0	1	0	34
	B	14	25	4	1	0	44
	C	4	6	2	0	0	12
	D	8	11	4	5	0	28
	E	0	1	0	0	0	1
計（人）		54	48	10	7	0	119

プレテストでは、効率と公正の両視点で課題を思考した生徒は78人（65%）、解決策まで提案した生徒は34人（28%）であった。ポストテストでは効率と公正の両視点で思考した生徒は102人（85%）、解決策まで提案した生徒は54人（45%）と増加した。

この結果から、授業後は効率と公正の両視点を働かせ視点が増えたり、立場が増えたりして多面的・多角的に思考し解決策を提案した生徒が増加した。

一方、ポストテストでも効率または公正のどちらかの視点のみで思考し、解決策に至らなかつた生徒が5人（4%）いた。これは、複数の資料から情報を読み取り思考していないこと、授業で習得した社会的な見方・考え方を、別の社会的事象において働かせ思考することが難しかったことが考えられる。

また、ポストテストにおいて効率と公正の両視点で企業や労働者などの複数の立場から思考しているものの、解決策の提案に至らず、B段階に留まった生徒が多い。これは一つの視点につき複数の立場から思考しなければならなかつたため、修正・発展した社会的な見方・考え方を働かせ、様々な立場の人たちが合意できる解決策を提案することが難しかつ

たのではないかと考える。

また、190頁表5と前頁表12から前期と後期を比較すると、効率と公正の両視点で思考した生徒は、前期ポストテストでは64%，後期プレテストでは65%であり、効率と公正の社会的な見方・考え方について一定の定着が図っていたことがうかがえる。

次に、後期のプレテスト・ポストテストにおける生徒の記述の変化を表13、表14に示す。表13の生徒dは、前期プレテスト・ポストテストにおいてD段階に留まっていたが、後期プレテストではC段階、後期ポストテストでA段階になった。

表13 プレテスト・ポストテストにおける記述の変化

	生徒d（前期D→D）	生徒d（後期C→A）
プレテスト	赤字バス路線は廃止します。なぜなら、 <u>市の税金まで使って存続させる必要はない</u> と思ったから。	やめるべきだと思います。お客様が少ないのに営業しても効率の面から良くないからです。これは営業時間を午前4時から午後12時までにすると少しは問題が軽くなると思います。
ポストテスト	赤字バス路線は存続させます。なぜなら、過疎化が進んでいるのに交通の便を減らすのはさらに過疎化につながると考えたから。	やめるべきだと思います。お客様の利用が少ない時間にお店を開いていても、限りある資源や時間などがもったいないからです。お客様の利用が少ない午後11時から午前5時台に防犯上の女性のかけこみが多いという意見もあるが、少しでも女性のかけこみができるよう深夜の12時までを営業とし、午前4時ごろから営業を再開すればいいと思います。

【下線部の凡例】 _____：効率、 ____：公正、 ____：解決策

生徒dは前期プレテスト・ポストテストにおいて公正の視点のみで思考し、解決策に至らなかった。後期プレテストでは、効率の視点のみでコンビニエンスストアの経営者の立場から思考し解決策を提案している。さらに後期ポストテストでは、公正の視点も加わり地域住民の立場から思考するだけでなく、効率の視点に国や世界など公的な立場が加わり、資源を限りあるものとして捉えた上で、解決策を提案している。このように生徒dが変化した要因については、後述する「学びのつながりシート」への記述分析で考察する。

次に、生徒eの後期プレテスト、ポストテストにおける記述の変化を表14に示す。

生徒eは、いずれも効率と公正の両視点で思考し解決策を提案しているが、ポストテストの方がより多面的・多角的に思考し、解決策を提案している。プレテストでは、効率の視点でコンビニエンスストアの経営者の立場から、公正の視点で地域住民、労働者の立場から思考し解決策を提案している。ポス

トテストでは、効率と公正の両視点で思考しているが、効率の視点に消費者や労働者の立場が加わり思考している。

表14 プレテスト・ポストテストにおける記述の変化

	生徒e（A→A）
プレテスト	やめるべきだと思います。コンビニエンスストアを深夜利用する客は少ないからだ。また、深夜営業することで周辺の治安が悪化したり、店員の身の安全が保障され（たり）しない。…しかし、本当に必要になる人もいるので、深夜営業は一部だけにすればよいと思う。
ポストテスト	やめるべきだと思います。24時間営業は深夜勤務で過酷な労働を強いられ、働く人を守れていないと思うからだ。また、深夜営業は強盗事件が発生しやすくコンビニエンスストアがある町、そこで働く人までもが危険な状態になってしまう。しかし、深夜早朝に利用する人や時給が高いから働きたい人もいる。だからその対策として、1つの市に何店舗かのみ24時間営業を続けるようにすれば良いと考える。そうすることで、コンビニエンスストアも仕事をうまく分担でき、店の売り上げが大きく減る懼がなくなる。また、私たち消費者も深夜早朝に物が買える店が残されるのでいつでも購入でき便利になる。

【下線部の凡例】 _____：効率、 ____：公正、 ____：解決策

ポストテストでは、一つの視点につき複数の立場から思考しているため、より多面的・多角的な思考となり、解決策もより複数の立場の人が合意できるものを提案している。言い換えれば、複数の立場の人が合意できる、よりよい解決策の提案には、多面的・多角的な思考が欠かせない。効率、公正のどちらかのみで思考するよりも、両視点で思考する方が多面的・多角的な思考であると考える。さらに、効率の視点で、コンビニエンスストアの経営者や労働者、消費者など複数の立場から思考し、公正の視点で、コンビニエンスストアや地域住民、消費者など複数の立場から思考することが、より多面的・多角的な思考であり、効率や公正の社会的な見方・考え方も修正・発展していると考える。

このように後期プレテスト・ポストテストとともにA段階だが、後期ポストテストの方がより多面的・多角的に考察した生徒は、28人中14人であった。また、ポストテストがA段階だった生徒のうち34人（全体の28%）が、一つの視点につき複数の立場から、より多面的・多角的に思考し解決策を提案していた。

このように、効率と公正の両視点を働かせ、企業や労働について新たに習得した知識や概念を関連付けて思考したこと、他者との交流を通して、修正・発展した社会的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に思考したことによって、複数の立場の人が合意できる解決策の提案につながったと考える。

2 予想の場面と考察の場面を充実させる課

題発見・解決学習は有効であったか

(1) 解決へ向けて知りたい情報の回答分析

次の表15は予想前と考察前に解決へ向けて知りたい情報について質問し生徒が回答した内容である。

表15 解決へ向けて知りたい情報

予想前（第1時）	考察前（第6時）
・なぜ企業は非正規雇用をするのか	・非正規雇用を望む人はいないのか (望む人の割合)
・なぜ非正規雇用はなくならないのか	・日本の労働人口
・企業はなぜ正規と非正規の社員を分けて採用するのか	・外国との比較
・正社員と非正規労働者の賃金や待遇、労働時間の差	・労働に関する法律や制度
・非正規労働者から正社員になれるか	

予想前（第1時）では、効率の視点で企業の立場から、公正の視点で労働者の立場から捉えたものを挙げている。考察前（第6時）では、効率の視点に労働者の立場、公正の視点に企業の立場が加わっている。これは、第2時以降に企業の仕組みや競争、労働者の権利や労働環境の変化などについて考える授業を行い、両視点で様々な立場から多面的・多角的に思考することが、複数の立場の人が合意できる解決策になると気付いたためだと考える。

また、予想前に「なぜ」という問い合わせで知りたい情報が挙がった。これは、非正規雇用問題を提示されたとき、前期に学習した効率と公正の社会的な見方・考え方を働き、「なぜ、不公平なのに非正規雇用はなくならないのだろう。」という生徒の認識とのズレが生じたためだと考える。このような「なぜ」という疑問が生まれると、その疑問に答えるために、「企業の仕組みを理解する必要がある。」「労働について調べねばならない。」などの意見が挙がった。これが、課題解決への筋道や見通しを立てることになり、何をどのように調べ、解決を図ればよいのか明確になった。

(2) 「学びのつながりシート」への記述分析

次に「学びのつながりシート」への記述について多面的・多角的に考察し解決策を提案できたかについて検証した。効率と公正の視点で捉える理由・根拠の例を表16のように整理し、190頁表3を基に集計した結果を表17に示す。

表16 「学びのつながりシート」における効率と公正の視点で捉える理由・根拠の例

各視点で捉える理由・根拠の例	
効率の視点 (無駄を省く)	・企業の利益 ・企業の採算 ・生産性の向上 ・労働者の効率的な働き方
公正の視点 (公平である)	・労働者の働く権利 ・企業による雇用の創出 ・労働条件（賃金など）や制度の公平性

表17において、予想では効率と公正の両視点で考えている生徒が77人（64%）であったが、考察後は106人（89%）になった。この結果から、授業後、効率と公正の両視点を社会的な見方・考え方として働きかせ思考した生徒が増えている。

表17 「学びのつながりシート」におけるクロス集計

		考 察 後					計（人）
		A	B	C	D	E	
予 想	A	47	5	0	0	0	52
	B	18	6	1	0	0	25
	C	9	4	1	0	0	14
	D	14	3	7	4	0	28
	E	0	0	0	0	0	0
計（人）		88	18	9	4	0	119

次に生徒dの「学びのつながりシート」における解決策の記述の変化を表18に示す。

表18 「学びのつながりシート」における解決策の記述の変化

生徒d（A→A）	
予 想	やめるべきだと思う。 正社員と非正規社員が同じ内容の仕事をしても時給が上がらないのはおかしいと思うからだ。人件費を減らしたいという意見もあるが、仕事内容の大変さで時給を決めたら良いと思う。
考 察 後	続けるべきだと思う。 安い賃金で働いてくれる人がいると企業が助かるからです。なかなか正社員になれずこまるという意見もありますが、成績が良い人などは非正規社員から正社員へ昇格するしくみをつくり、給料も仕事内容で決めたら解決すると思います。

【下線部の凡例】 : 効率, ____ : 公正, ___ : 解決策

生徒dは、予想時、効率と公正の両視点で企業、労働者の立場から思考し解決策を提案している。このとき主に賃金の面だけで思考しているが、考察後、立場は増えなかったものの賃金と雇用制度の二つの面から思考し解決策を提案している。この変化は、企業や労働について習得した新たな知識や概念を関連付けて思考し、他者との交流を通して社会的な見方・考え方を吟味し、成長させたためだと考える。

生徒dは、前期プレテスト・ポストテストではD段階に留まっていたが、後期プレテスト・ポストテストでは、C段階からA段階になった生徒である。生徒dが後期ポストテストでA段階になった要因として、「学びのつながりシート」を改善し、他者との交流を通して既存の社会的な見方・考え方を吟味し修正・発展させたこと、また予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習の単元構成を通して社会的な見方・考え方を働きかせた思考により、その修正・発展を促したことが挙げられる。

次に、予想、考察後ともにA段階だが、考察後の

方が思考する側面や立場が増え、より多面的・多角的に思考し、複数の立場の人が合意できる解決策となつた生徒fの「学びのつながりシート」における記述を表19で示す。

表19 「学びのつながりシート」における解決策の記述の変化

生徒f (A→A)	
予想	やめるべきだと思う。正社員と非正規社員で同じだけ仕事をしても給料に大きな差があるのは不平等だからだ。… <u>非正規社員は正社員と違つて能率に差がある</u> という意見もあるが、… <u>給料は、こなした仕事の量で決めれば良い</u> 。
考察後	続けるべきだと思う。日本は少子高齢化になり、共働きも増え高齢者でも働くことのできる非正規雇用のような労働条件が必要となる。また、企業の発展にとっても必要となるからだ。給料の差を減らすために、 <u>賃金に成果主義を取り入れることで差を減らし…国が全ての企業に雇つてよい正社員と非正規雇用の割合を定めたら良い</u> と思う。これらの解決策を用いれば非正規雇用を続けながら働く人を守ることもできる。

【下線部の凡例】 : 効率, : 公正, : 解決策

生徒fは、考察後、効率と公正の両視点で思考しているが、公正の視点に国の立場が加わり、一つの視点における立場が増え、賃金だけでなく労働、雇用、少子高齢化など思考する側面が増え、より多面的・多角的な思考から解決策を提案している。生徒fと同様に予想、考察後ともにA段階だが、一つの視点における立場が増えたり、他の側面から思考したりした生徒は47人中25人(53%)いた。

このような変化は、生徒dと同様に「学びのつながりシート」を活用しながら、他者との交流を通して既存の社会的な見方・考え方を修正・発展させたためだと考える。

また、他者との交流前と交流後を比較すると、交流後に判断基準の段階が上がっていたり、より多くの視点や立場を反映した解決策になつたりした生徒は55人(46%)いた。これは、交流で得た他者の意見をシートに記入して、自分の考えと比較し、社会的な見方・考え方の吟味ができるよう、「学びのつながりシート」を改善したためだと考える。これにより既存の社会的な見方・考え方を修正・発展することを促したと考える。前期と比較して、後期の考察後にC・D段階の生徒が減少したのもこのためだと考える。

(3) 課題設定における「なぜ疑問」の有効性

課題発見・解決学習における、生徒からの「なぜ」という疑問に基づく課題設定の有効性について、表9と表17から前期と後期の考察後にA段階であった生徒を比較し分析した。A段階つまり、効率と公正の両視点で複数の立場から思考し解決策を出した生

徒は、前期が60%、後期が73%であった。後期の方が、社会的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に思考し解決策を提案していることが分かる。

これは、社会的な見方・考え方を働かせた思考を促し、多面的・多角的に考察し、社会的な見方・考え方をより一層修正・発展させたためだと考える。

また、「なぜ」という疑問に基づいて設定した課題を解決するために、生徒は社会的な見方・考え方を働かせて思考し、理由や根拠を挙げて説明する必要があるため、「学びのつながりシート」への記述では、社会的な見方・考え方より多く表出した。そして、シートを基に他者と交流することで、既存の社会的な見方・考え方を吟味し、修正・発展させることにつながった。シートに記述された最終解決策は、効率と公正という複数の視点で、また、一つの視点において様々な側面、複数の立場から思考し、より多面的・多角的に考察したものになっていた。

このように、課題発見・解決学習において、生徒からの「なぜ」という疑問を基に課題を設定することは、社会的な見方・考え方を働かせた思考を促し、修正・発展させる上で有効だと考える。

3 「学びのつながりシート」は思考を可視化し、社会的な見方・考え方を働かせた思考を促す上で有効であったか

図11は、前期事前アンケートと後期事後アンケートの比較である。

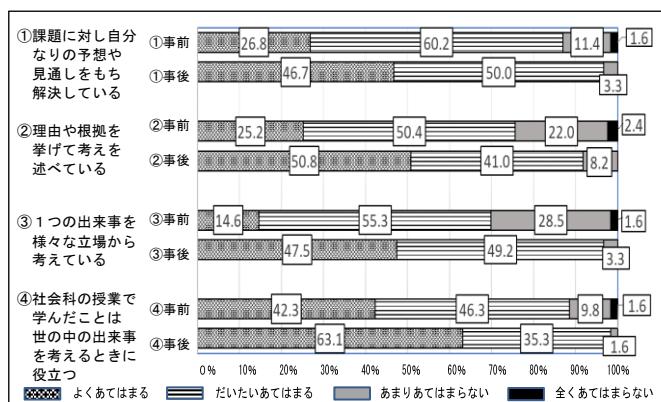


図11 前期事前・後期事後アンケートの比較 (総数120人)

前期事前アンケートに比べて、後期事後アンケートでは、見通しをもって課題解決をしている、根拠を挙げて考えを述べているという項目に、よくあてはまると答えた生徒の割合は約2倍、一つの出来事を様々な立場から考えているという項目に、よくあてはまると答えた生徒は14.6%から47.5%に増加し

た。また、社会科で学んだことは世の中の出来事を考えるときに役に立つという項目に、よくあてはまると答えた生徒も42.3%から63.1%に増えた。

このことから「学びのつながりシート」は、理由や根拠を挙げて説明させることで、社会的な見方・考え方を働かせた思考を促し、これを表出させ認識させることに有効だったことが分かる。また、シートに反論やその対策を想定し、シートを基にした他者との交流を通して、既存の社会的な見方・考え方を吟味し、より多面的・多角的に思考させることで、様々な立場から思考させることにつながった。さらに、「学びのつながりシート」に記述した予想と考察後の思考を比較することにより、生徒自身が学ぶ価値や意義を実感することにもつながっていた。

X 年間の研究のまとめ

1 研究の成果

予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習は、既存の社会的な見方・考え方を修正・発展させ、成長させることに有効であったと考える。

充実させる手立てとして、「学びのつながりシート」によって、自分の思考の根拠となる社会的な見方・考え方を表出させ、より多面的・多角的に予想や考察をさせることで思考を深めた。また、社会的な見方・考え方を表出させ、可視化することによって、社会的な見方・考え方を修正・発展したことを見出された。生徒自身が認識し、学ぶ価値や意義を実感することにもつながった。さらに生徒からの「なぜ」という疑問に基づく課題発見・解決学習の単元構成によって、探究意欲を高め、既習の知識や概念を関連付け、他者との交流を通して既存の社会的な見方・考え方を吟味し、これを修正・発展させ、成長させることにつながった。

2 研究の課題

前期に比べて後期では、社会的な見方・考え方方が成長し、効率と公正の両視点から思考した生徒の割合が64%から85%へと増加した。しかし、解決策の提案までできた生徒の割合は、前期と後期でほぼ変わらなかった。これは、社会的な見方・考え方方が成長すると、視点が増え様々な立場から多面的・多角的に思考するため、様々な立場の人が合意できる具体的な解決策を提案することが、却って難しくなったためだと考える。課題に対する解決策は、賛成・反対のような二者択一ではなく、条件付きの賛成・

反対のような解決策を生徒が思考できる発問や単元構成を工夫することが必要である。

また、社会的な見方・考え方は、課題解決に向け思考し予想や考察を通して、徐々に修正・発展しながら成長するため、習得した社会的な見方・考え方を働かせて思考する課題発見・解決学習の単元開発を引き続き行い、繰り返していく必要がある。

そして、地理的分野や歴史的分野でも、社会的な見方・考え方を働かせた思考を促し、既存の社会的な見方・考え方を一層修正・発展させる学習指導を行うため、「学びのつながりシート」や「予想や考察の場面を充実させる課題発見・解決学習の単元構成」の改善を図る。

【注】

- (1) 文部科学省（平成29年）：『中学校学習指導要領』p.26 www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm に詳しい。
- (2) 石井英真（2017）：『中教審「答申」を読み解く』日本標準p.30に詳しい。
- (3) 石井英真（2015）：『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—』日本標準pp.39-46に詳しい。
- (4) 石井英真（2015）：前掲書pp.21-29を参照されたい。
- (5) 石井英真（2017）：前掲書pp.30-33に詳しい。
- (6) 森分孝治（1984）：『現代社会科授業理論』明治図書p.50を参照されたい。
- (7) 森分孝治（1978）：『社会科授業構成の理論と方法』明治図書pp.103-112に詳しい。
- (8) 森分孝治（1984）：前掲書pp.121-137に詳しい。
- (9) 森分孝治（1984）：前掲書pp.160-164に詳しい。
- (10) 米田豊（2014）：『社会科教育における思考力・判断力・表現力の評価方法の開発—教育現場の実態把握と論理学、分析哲学、社会学、認知心理学の研究成果を組み込んで—』http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/h25/2_2_all.pdfに詳しい。

【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成28年）：『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 p.133
- 2) 文部科学省（平成28年）：前掲書p.133
- 3) 文部科学省（平成28年）：前掲書p.133
- 4) 森分孝治（1978）：前掲書p.117
- 5) 森分孝治（1984）：前掲書p.76
- 6) 大杉昭英（2017）：『アクティブラーニング授業改革のマスターキー』明治図書p.46
- 7) 大杉昭英（2017）：前掲書p.46
- 8) 森分孝治（1984）：前掲書p.78
- 9) 森分孝治（1984）：前掲書p.79
- 10) 森分孝治（1984）：前掲書p.79
- 11) 森分孝治（1984）：前掲書p.78

【参考文献】

- 石井英真（2011）：『現代アメリカにおける学力形成論の展開—スタンダードに基づくカリキュラムの設計—』東信堂
唐木清志（2016）：『「公民的資質」とは何か』東洋館出版社
小原友行（2011）：『「思考力・判断力・表現力」をつける中学校公民授業モデル』明治図書
澤井陽介（2017）：『平成29年版学習指導要領のポイント小学校・中学校社会』明治図書
米田豊（2014）：『「習得・活用・探究」の社会科授業&評価問題プラン（小学校編）』明治図書